

日本薬学会
第144年会(横浜)
年会ハイライト集

2024年
3月28日(木)～31日(日) パシフィコ横浜

創薬「遺伝子」や「環境」と共栄する薬文化の創生
～持続可能な“デジタル治療”の融合を目指して～

Creation of a Pharmaceutical Culture that Co-prosperity with "Genes" and "Environment":
Toward the Integration of Sustainable "Digital Therapy"



公益社団法人 日本薬学会

ご挨拶

日本薬学会第144年会は、『遺伝子』や『環境』と共栄する薬文化の創生—持続可能な“デジタル治療”の融合を目指して」をテーマに、2024年3月28日（木）から31日（日）までの4日間、パシフィコ横浜で開催されます。5年ぶりの「完全対面」での開催です。

本年会では、開会式・会頭講演から始まり、特別講演では塩野義製薬手代木氏を皮切りに、二人のノーベル賞受賞者を含む海外5件・国内8件の講演が予定されています。シンポジウムでは、日本薬系学会連合の発足を契機としたジョイントシンポジウムが11件、国際交流シンポジウム2件、理事会からはダイバーシティシンポジウムが企画されています。総シンポジウム数は一般・大学院生企画を含め88件、一般学術発表も3,561件（口頭発表1,034件、ポスター発表2,527件）と過去最大規模となりました。

ハイライト集の発行にあたっては、日本薬学会広報委員会のご協力のもと、注目すべき研究や一般の方の関心が高い演題に焦点を当て、選択の助けになるよう各項目にキーワードを付けました。また、注目のシンポジウムには、グラフィカルアブストラクトを、一般講演からは、各分野の選りすぐりの概要を掲載いたしました。本誌が、年会の見どころ、聴きどころの参考になれば幸いです。

日本薬学会第144年会 組織委員長 米持 悦生

日本薬学会は、「くすり」に関する研究者や技術者が、学術上の情報交換を行い、学術文化の発展を目的として活動する学術団体です。年会、支部会、専門部会など、様々な学術集会の開催、学術誌、会報誌の発刊を通じて情報発信を行っています。広報委員会は、これらの活動を社会の皆様幅広く知っていただくための活動を行っています。本誌「年会ハイライト集」もその一環であり、年会組織委員会と協力して制作いたしました。年会では多数の研究結果が発表されますが、第144年会組織委員会が厳選したシンポジウムと一般発表について、「キャッチコピーと概要、キーワード」を掲載しています。報道関係や一般の皆様を対象とすることを念頭に、平易な表現を心がけましたが、いかがでしょうか。本冊子を通じて、薬学会に関心を持っていただき、年会会場に足をお運びいただけましたら幸いです。

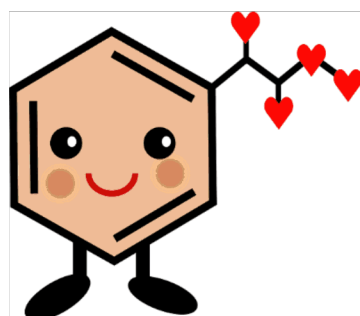
最近、薬学会からの情報発信を強化するため、ウェブサイトを一新いたしました。コンテンツも整備されていますので、ぜひご覧ください。報道関係の皆様におかれましては、引き続き本学会へのご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。末筆ではありますが、本冊子の制作にご協力いただきました皆様に感謝申し上げます。

公益社団法人日本薬学会 広報委員長 楠原 洋之

日本薬学会第 144 年会ハイライト

目 次

2024 年度学会賞受賞者・受賞講演日時	1
日本薬学会第 144 年会特別講演等プログラム	7
シンポジウム グラフィカルアブストラクト	9
ジョイントシンポジウム / 国際交流シンポジウム / 理事会企画シンポジウム / 一般シンポジウム	
一般学術発表系別演題数	19
一般学術発表 ハイライト要旨	20
一般学術発表 キャッチフレーズ一覧	32
キーワード一覧	36



日本薬学会キャラクター ドリン君

2024 年度日本薬学会 学会賞受賞者・受賞講演日時

薬学会賞受賞者（応募 12 件、授賞 4 件）

薬学の基礎および応用に関し、本学会を代表するに足る研究業績をあげ、世界の学術進歩に著しく貢献した研究者



青木 淳賢

（東京大学大学院薬学系研究科 教授）

「リゾリン脂質の代謝・作用に関する薬学的研究」

2024 年 3 月 29 日（金）15:30～16:30 メインホール



玉井 郁巳

（金沢大学医薬保健研究域薬学系 教授）

「輸送体を基盤とした薬物・生理的物質の動態と作用に関する研究」

2024 年 3 月 30 日（土）9:00～10:00 メインホール



林 良雄

（東京薬科大学生命科学部 教授）

「ペプチド化学を基盤とする難治性疾患克服を目指した創薬化学研究」

2024 年 3 月 30 日（土）13:15～14:15 メインホール



原 英彰

（岐阜薬科大学 学長）

「病態形成に関わる生体機能因子の探索並びに機構の解析に基づく医薬品開発研究」

2024 年 3 月 29 日（金）16:45～17:45 メインホール

学術貢献賞受賞者（応募 5 件、授賞 3 件）

薬学の基礎および応用に関し、各専門部門で優れた研究業績をあげ、薬学の発展に顕著な貢献をなした研究者

第 1A 部門 有機化学 第 1B 部門 生薬・天然物化学、医薬品化学

第 2 部門 分析化学、物理化学、アイソトープ・放射線科学

第 3 部門 生物化学、微生物科学

第 4A 部門 薬剤学・製剤学、医療薬学 第 4B 部門 衛生化学、薬理学

第1A部門



須貝 威

(慶應義塾大学薬学部 教授)

「医薬品合成における官能基・位置・立体選択的反応の開拓」

2024年3月29日(金) 13:15~14:05 メインホール

第1B部門



橘高 敦史

(帝京大学薬学部 教授)

「多様な活性をもつビタミンD誘導体の開発研究」

2024年3月29日(金) 14:15~15:05 メインホール

第2部門



小林 典裕

(神戸薬科大学 特別教授)

「高性能抗体の新規創出と生物活性物質の高感度精密計測への展開」

2024年3月31日(日) 9:15~10:05 メインホール

学術振興賞受賞者(応募9件、授賞3件)

薬学の基礎および応用に関し、各専門分野で優れた研究業績をあげ、その振興に寄与し、世界的にも注目される発展性のある研究者

第1A部門 有機化学 第1B部門 生薬・天然物化学、医薬品化学

第2部門 分析化学、物理化学、アイソトープ・放射線科学

第3部門 生物化学、微生物科学

第4A部門 薬剤学・製剤学、医療薬学 第4B部門 衛生化学、薬理学

第1A部門



石川 勇人

(千葉大学大学院薬学研究院 教授)

「バイオインスパイアード反応と有機触媒反応を基軸とした多環性天然物の高効率的全合成」

2024年3月30日(土) 13:15~13:55 503 会場

第4A部門



米澤 淳

(慶應義塾大学薬学部 教授)

「新規リポフラビントランスポータ RFVT の同定と生理機能解析」

2024年3月30日(土) 16:50~17:30 503 会場

第4B部門



土居 雅夫

(京都大学大学院薬学研究科 教授)

「加齢性疾患・生活習慣病治療に向けた時間生物学に基づく時間医薬科学の展開」

2024年3月30日(土) 14:05~14:45 503 会場

奨励賞受賞者(応募17件、授賞8件)

薬学の基礎および応用に関し、独創的な研究業績をあげつつあり、薬学の将来を担うことが期待される研究者



今井 俊吾

(慶應義塾大学薬学部 専任講師)

「機械学習と医療ビッグデータを駆使したデータ駆動型臨床薬学研究の実践」

2024年3月31日(日) 14:00~14:30 503 会場



牛丸 理一郎

(東京大学大学院薬学系研究科 助教)

「天然物生合成酵素の新規触媒機能の探索と反応機構解析」

2024年3月29日(金) 15:30~16:00 418 会場



小島 慧一

(岡山大学学術研究院医歯薬学域 助教)

「光受容タンパク質ロドプシンの分光解析と光遺伝学ツール開発」

2024年3月29日(金) 16:15~16:45 418 会場



佐藤 秀行

(静岡県立大学薬学部 准教授)

「機能性微粒子設計による薬物動態制御を基盤とした薬剤科学的研究」

2024年3月29日(金) 17:00~17:30 418 会場

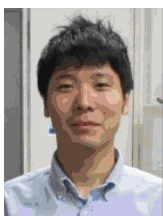


鳥海 尚之

(東京大学大学院薬学系研究科 助教)

「光を活用するための分子技術の開発と化学薬学研究」

2024年3月30日(土) 15:30~16:00 418 会場



南條 毅

(京都大学大学院薬学研究科 助教)

「化学選択的変換を基盤とした非天然型ペプチドの迅速合成法の開発」

2024年3月30日(土) 15:30~16:00 418 会場



前田 仁志

(熊本大学大学院生命科学研究部 助教)

「生体模倣型アルブミンを基軸とした革新的 DDS の開発と難治性疾患治療への応用」

2024年3月30日(土) 17:00~17:30 418 会場



水野 忠快

(東京大学大学院薬学系研究科 助教)

「薬物の作用の包括的言語化に向けた研究基盤の構築」

2024年3月31日(日) 13:15~13:45 503 会場

女性薬学研究者奨励賞受賞者(応募3件、授賞2件)

アカデミア領域においては教授・准教授を除く職位、医療現場においては部長・副部長を除く職位、企業においてはこれらに準ずる職位の女性研究者であり、薬学の基礎および応用に関し、優れた研究成果をあげた女性研究者で、これからも高い研究成果をあげることで薬学研究の発展に寄与するとともにキャリアアップが期待される女性研究者



高橋 葉子

(東京薬科大学 講師)

「遺伝子・核酸搭載型ナノバブルの開発と超音波診断・治療への応用」

2024年3月31日(日) 14:45~15:15 503 会場



古堅 彩子

(北海道大学大学院薬学研究院 助教)

「定量・毒性解析を基盤とした、妊娠・授乳期の薬物治療における安全性評価」

2024年3月31日(日) 15:30~16:00 503 会場

創薬科学賞受賞者(応募5件、授賞2件)

医薬品(診断薬・ワクチン、遺伝子医療、再生医療、リポジショニング等も含む)の創製により、医療に貢献した優れた研究業績をあげた者

あるいは医薬品の創製に関連した応用技術の開発・実用化により、医療に貢献した優れた研究業績をあげた者

「睡眠障害治療薬を志向したオレキシン1/2受容体新規デュアルアンタゴニスト レンボレキサントの創製」

受賞講演 2024年3月31日(日) 10:10~10:50 503 会場



寺内 太朗



上野 孝哉



朝倉 省二



久保田直樹



ボイクマン カーステン

寺内 太朗 (エーザイ株式会社 DHBL&プロテインインテグリティ&ホメオスタシスドメイン ヘッド)

上野 孝哉 (エーザイ株式会社 DHBL PPD ファンクション BA ユニット グローバル薬物動態研究部 主幹研究員)

朝倉 省二 (エーザイ株式会社 DHBL PPD ファンクション BA ユニット グローバル安全性研究部 部長)

久保田直樹 (エーザイ株式会社 DHBL CEG 日本・アジア臨床開発部 ディレクター)

ボイクマン カーステン (ツインピークスマウンテンブルーイング合同会社 社長)

受賞理由

不眠症の主原因が覚醒経路の夜間過剰活性化であることを踏まえ、従来薬とは異なり、合理的な治療アプローチと考えられる覚醒系の抑制に狙いを定めた点が成功の起点となっている。化合物においては、合理的判断により3置換シクロプロパンを基本とするユニーク構造とした点に高い独創性がある。また、薬物動態や安全性の多くの課題を克服し、バランスの取れたプロファイルの化合物に最適化した点も評価が高い。前臨床から臨床試験において、従来薬とは一線を画す優れた薬効および安全性プロファイルを示し、国内外において多くの不眠症患者のアンメットメディカルニーズを充足しつつある。以上のことから創薬科学賞の受賞に十分値するものと判断された。

「抗 FGF23 抗体ブロスマブ (burosumab) の研究開発」

受賞講演 2024年3月31日 (日) 11:00~11:40 503 会場



山崎 雄司



福本 誠二



山下 武美



島田 孝志



浦川 到

山崎 雄司 (協和キリン株式会社 研究開発本部 研究ユニット 疾患サイエンス第1研究所 所長)

福本 誠二 (たまき青空病院 名誉院長)

山下 武美 (協和キリン株式会社 取締役専務執行役員)

島田 孝志 (協和キリン株式会社 研究開発本部 研究ユニット 研究マネジメントオフィス オフィス長)

浦川 到 (協和キリン株式会社 研究開発本部 東京リサーチパーク IT インフラグループ マネジャー)

受賞理由

産学協同研究による低リン血症性くる病・骨軟化症の病因となる FGF23 の同定や、受容体機構を含むその生体内での作用解明や測定法開発に始まり、疾患概念の確立、さらには FGF23 に対する強力な中和活性を有する完全ヒト型抗体の取得、そして臨床試験を進めることで根本治療薬の創製に成功した。これら基礎研究に始まり医薬品創出に至る長年の研究開発は新規性や独創性、革新性に優れるとともに、既存治療法と比較して患者の QOL を大きく改善したという点で医療現場へのインパクトも絶大である。以上のことから創薬科学賞の受賞に十分値するものと判断された。

特別講演等プログラム

開会式～会頭講演

3月29日(金) 9:15 ～ 10:15 [メイン会場]

組織委員長 挨拶

来賓 挨拶

会頭 挨拶

〈会頭講演〉

日本薬学会の希望ある未来のために 日本薬学会 会頭 岩淵 好治

特別講演

ヘルスケアの未来創造にむけて

～世界に届ける強い意志がイノベーションの源泉～

手代木 功 (塩野義製薬)

3月29日(金) 10:30 ～ 11:30 [メイン会場]

Pretargeting theranostics – delivery, imaging, and response

Dmitri Artemov, Sudath Hapuarachchige, Ge Si, Wojciech Lesniak

(Johns Hopkins University Dept. of Radiology,

Johns Hopkins University Dept. of Oncology)

3月29日(金) 08:30 ～ 09:30 [301会場]

Clicking in Chemistry and Chemical Biology

Morten P. Meldal (Department of Chemistry,

University of Copenhagen, Denmark)

3月29日(金) 16:00 ～ 17:00 [503会場]

幹細胞生物学に基盤をおいた中枢神経系の再生医療と創薬研究

岡野 栄之 (慶應大医)

3月30日(土) 10:30 ～ 11:30 [メイン会場]

CATALYSIS for Total Synthesis

Alois Fürstner (Max-Planck-Institut für Kohlenforschung)

3月30日(土) 10:45 ～ 11:45 [502会場]

Neuroimmune signaling in pain and barrier immunity

Isaac M. Chiu (Harvard Medical School,
Department of Immunology, Boston, MA, USA)

3月30日(土) 09:00 ~ 10:00 [503会場]

免疫応答の制御：新しい免疫医療に向けて

坂口 志文 (阪大免疫学フロンティア研セ)

3月30日(土) 14:30 ~ 15:30 [メイン会場]

異分野融合によって育まれた質量分析

田中 耕一 (島津製作所)

3月30日(土) 15:45 ~ 16:45 [メイン会場]

ケモカイン発見による白血球浸潤機序の解明と創薬開発研究

松島 綱治 (東京理大生命研)

3月30日(土) 17:00 ~ 18:00 [メイン会場]

がん創薬とゲノム

間野 博行 (国立がん研セ)

3月31日(日) 10:30 ~ 11:30 [メイン会場]

Imagine a world where anyone can make medicines

Martin D. Burke (May and Ving Lee Professor for Chemical Innovation,
University of Illinois at Urbana-Champaign)

3月31日(日) 09:00 ~ 10:00 [503会場]

大規模生成 AI とゲノム科学による創薬を目指して

二階堂 愛 (医科歯科大難研、理研 BDR)

3月31日(日) 13:15 ~ 14:15 [メイン会場]

創立 150 周年を迎える国立衛研とレギュラトリーサイエンス

本間 正充 (国立衛研)

3月31日(日) 14:30 ~ 15:30 [メイン会場]



シンポジウム グラフィカルアブストラクト

JS01	<p>環境化学物質による付加体形成を介した生体恒常性への影響</p> <p style="text-align: right;">オーガナイザー 熊谷 嘉人 (九大)・上原 孝 (岡山大)</p>
<p>2024年3月29日(金) 9:45 ~ 11:45 503 会場</p>	
<p>地球上には多種多様の化学物質が存在しており、人類は水、大気、食物、薬、サプリメントなどを介して、意図的あるいは非意図的にこれらを体内に取り入れています。したがって、私たちは生涯に渡って無数の化学物質に曝露され続けています。これらが生体にどのように影響しているのかを明らかにする学問として「エクスポソーム」という概念が提唱されていますが、膨大な数の化学物質の影響を探ることはほとんど不可能な状況です。一方、生体内分子と共有結合を形成することで、毒性を発揮したり、時にはシグナル分子として働いている化学物質が存在することが証明されています。したがって、環境化学物質が生体にとって善でもあり、悪でもあることを示唆しています。タンパク質などの付加体形成で生じる細胞内レドックスシグナル系の変動やエピジェネティックなどの生体内変化、それに起因する疾患発症に関する研究成果を紹介します。</p>	
<p>キーワード #環境化学物質 #付加体形成 #作用メカニズム</p>	

JS03	<p>医療に貢献する院内製剤：患者・臨床・企業のニーズを探り、情報を集約する—</p> <p>日本医療薬学会、日本薬剤学会、日本薬学会、3学会ジョイントシンポジウム—</p> <p style="text-align: right;">オーガナイザー 百 賢二 (昭和大薬)、花輪 剛久 (東京理大薬)</p>
<p>2024年3月29日(金) 13:15 ~ 15:15 418 会場</p>	
<p>かねてより、薬剤師は臨床の現場において、薬の専門家として患者の病態や医薬品の服薬・使用状況に合わせて既存の医薬品の剤形を他の剤形に加工する、また医薬品の成分や、研究に用いられている試薬を用いて新規な製剤を調製するという、いわゆる「院内製剤」を調製してきました。</p> <p>しかしながら、昨今の薬剤師の職能の拡大に伴う病院薬剤師のマンパワー不足を背景に院内製剤の業務は年々縮小する傾向にあります。</p> <p>病院などの医療機関内で院内製剤が調製できなくなった場合は既存の医薬品のみで治療を行わねばならず、細かい用量設定が必要な患者さんや既存の医薬品では服薬や使用が困難な患者さんなどに対して、製剤学的な個別化医療の実践が困難になることが懸念されます。</p> <p>このような課題を解決するためには、積極的に患者のニーズを収集し、製薬企業と共同で院内製剤を市販化するための活動が必要と考えます。本シンポジウムでは、日本医療薬学会、日本薬剤学会、日本薬学会の3学会のジョイントシンポジウムとして、各学会に所属する院内製剤研究者より院内製剤の現状や将来展望を明らかにしつつ「今やるべきこと、やれること」についてディスカッションします。</p>	
<p>キーワード #院内製剤 #医薬品開発 #薬剤師の職能</p>	

JS06	医薬品の安全性を高める連携の力 オーガナイザー 高柳 和伸（倉敷中央病院薬）、森 英樹（岡山赤十字病院薬）
	2024年3月30日(土) 9:45 ~ 11:45 501 会場

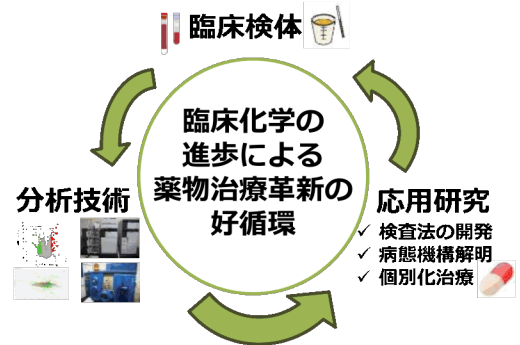
医薬品を安全に使用するには、個々の患者にとって最適な薬剤が過不足なく処方され、患者が正しく服用し、さらに服用に関連した有害事象を患者・家族・医療者等が切れ目なくモニタリングしていく必要があります。近年、院外処方せんの発行による医薬分業が進展し、薬物療法を病院および保険薬局薬剤師が連携して主体的に担う体制が構築されています。社会の高齢化が進み、多疾患併存患者に対するポリファーマシーの問題など山積する課題を解決するには、かかりつけ薬剤師を核とする地域連携が益々重要とされています。本シンポジウムでは病院・保険薬局それぞれの立場から、周術期や入退院前後の情報連携によって医薬品の安全性を高める取り組みを紹介し、患者やご家族の生活環境や薬物治療に関わる思いをどのように共有して医師・看護師・薬剤師などの多職種間の連携を構築していったらよいのか、その課題は何かについて考えてみたいと思います。

周術期に休薬を考慮する薬剤	
	出血のリスクがある薬剤
	抗血小板薬
	抗凝固薬
	血栓形成のリスクがある薬剤
	卵胞ホルモン・黄体ホルモン製剤
	SERM
	その他
特	乳酸アシドーシス・ケトアシドーシスのリスクがある薬剤
	消化器内視鏡時に休薬を考慮する薬剤
	出血のリスクがある薬剤
	抗血小板薬
	抗凝固薬

キーワード #周術期の薬剤情報連携 #かかりつけ薬剤師 #地域フォーミュラリ
--

JS08	「第8回 臨床化学の進歩が変える薬物治療」 ～高深度解析によって疾患克服の糸口をつかむ～ オーガナイザー 前川 正充（東北大学病院薬）、城野 博史（熊本大病院薬）
	2024年3月30日(土) 13:15 ~ 15:15 501 会場

「臨床化学」という学問領域をご存じでしょうか。臨床化学は、臨床検査の実践と研究開発を実践します。具体的には、様々な分析技術を用いヒトの血液や尿などの検体を分析し、病気の診断や薬の効果を調べることが可能になります。また、検査技術の開発等により分析技術を高度化することで、より多くの生体情報を得ることが可能になります。それによって、臨床検査業務の改善のみならず、病気の原因や病態のメカニズムを新たに解明することも可能になります。このように臨床化学は、疾患の早期診断法、治療方法の開発・予防法の開発、昨今注目される個別化医療等の構築等に貢献しますが、これには、薬学と臨床化学の共創が不可欠です。本シンポジウムは、日本臨床化学会とのジョイントで開催し、高精度・高深度の分子解析の最新知見を演者の先生方からご講演いただき、効果的な診断・薬物治療の実践に必要な、臨床化学の進歩による薬物治療の進歩について議論したいと考えています。



キーワード #臨床化学 #バイオマーカー #分析技術

JS09	薬学の力で新たながん医療を切り拓く	オーガナイザー 佐野 元彦 (星薬科大学)、池田 龍二 (宮崎大病院薬)、 三宅 知宏 (伊勢赤十字病院薬)、藤田 行代志 (群馬がん薬)
	2024年3月31日(日) 9:45 ~ 11:45	302 会場

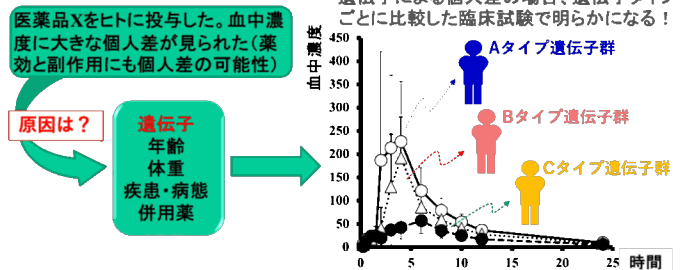
2023年7月に発足した日本薬系学会連合は、基礎研究者と臨床研究者の研究交流や知識共有の場として機能し、薬学の知見や経験を結集して医療の新たな進化や患者の生活の質向上に向けて重要な役割を果たすことが期待されています。本シンポジウムは、年会主担当の星薬科大学が企画立案して日本薬学会と日本医療薬学会が共同開催する連合発足後初のジョイントシンポジウムです。今回は、がん専門薬剤師やがん指導薬剤師、がん領域の研究者などの専門家が集い、臨床研究や新たなエビデンスの創出について議論します。臨床現場や薬系大学で活躍する4名のトップランナーと共に、分析化学が切り拓く患者未来、薬理学的な特性を熟知した薬剤師が果たすべき役割、医療ビッグデータを用いたがん医療に関連する新たな研究、臨床と大学の橋渡し研究の在り方など、幅広い討議を行うことで、「新たながん医療を切り拓く」契機となるシンポジウムになると期待しております。皆様のご参加を心よりお待ちしております。



キーワード	#薬学 #がん #臨床研究
-------	---------------------

JS11	個別化医療に寄与する薬剤学—基礎および臨床/開発の観点から	オーガナイザー 吉門 崇 (横浜薬大)、工藤 敏之 (武蔵野大薬)、白坂 善之 (金沢大院薬)、 佐藤 正延 (日本ベーリンガーインゲルハイム神戸医薬研)
	2024年3月31日(日) 13:15 ~ 15:15	303 会場

医薬品を摂取した後どのぐらい吸収されるか、体内で広がりやすいか、体内で別の物質に変換されやすいか、体外へと出されやすいかは、遺伝子と環境によって左右されることから、体内における薬の濃度には個人差が生じ得ます。また、薬が効果や副作用を発揮するには生体内分子(受容体や酵素など)と結合する必要がありますが、分子の数や、薬と分子の結合のしやすさにも個人差が有り得ます。これまでに国内外で行われた研究の歴史を振り返ると、個人差を生じるメカニズムや、個人差を考慮して薬の使い方や量を最適化する方法が明らかにされてきましたが、まだまだ奥が深く未知な部分が多く有ります。このセッションは日本薬剤学会 薬物相互作用・個別化医療フォーカスグループと日本薬学会とのジョイント企画で、将来的な個別化医療につながる基礎研究や、臨床現場での課題を解決するための研究、製薬企業でヒトの体内情報(バイオマーカー)をもとに治療を最適化する研究について講演いただき、活発な議論をすることで新たな着想と協同体制を得ることを目的としています。



キーワード	#薬の濃度・効果・副作用の個人差 #遺伝子要因・環境要因 #バイオマーカー
-------	---

IS01, 03, 05	国際交流シンポジウム 次世代薬学アジアシンポジウム ケミカルバイオロジー 1-3 オーガナイザー 上杉志成 (京大物質-細胞統合システム拠点・化学研)
2024年3月31日(日) 9:45 ~ 11:45	419 会場

最新のケミカルバイオロジーにおいて、新たなパラダイムが従来のアプローチを駆逐しつつある。このシンポジウムでは、中国、韓国、台湾、そして日本から集結したケミカルバイオロジーの分野で輝くスター講演者たちが登壇する。バイオイメージング、エビジェネティクス、天然物、小分子探索、生理活性タンパク質・核酸のデザインなど、ケミカルバイオロジーの新たな技術を紹介する。

ケミカルバイオロジーは基礎科学でありながら、新たな医薬モダリティの開発や医療技術の進展にも大いに寄与している。このシンポジウムの目的は、アジア地域の卓越した頭脳を結集し、画期的なアイデアとブレークスルーを生み出すことである。新しい創薬とその基礎研究を追究するアカデミアと企業の研究者、製薬企業や診断薬企業に就職を希望する学生の活発な参加に期待する。講演はすべて英語で行う。

キーワード	#ケミカルバイオロジー #バイオイメージング #化合物探索
-------	-------------------------------------

IS02, 04	国際交流シンポジウム 次世代薬学アジアシンポジウム クリニカルリサーチ 1, 2 オーガナイザー 岩淵好治 (東北大院薬)、林 良雄 (東京薬大)、 高倉喜信 (京大)、石井伊都子 (千葉大病院薬)
2024年3月31日(日) 13:15 ~ 15:15、15:30 ~ 17:30	418 会場

日本薬学会はアジアにおける薬学研究のプラットフォームになることを目指し、国際化に積極的に取り組んでおります。毎年年会では「次世代薬学アジアシンポジウム」を開催しており、本年会ではクリニカルリサーチにフォーカスし、2つのシンポジウムを予定しています。

演者はドイツ (ドイツ薬学会会長 Dr. Ulrich Jaehde、Dr. Peter Ruth)、カナダ (Dr. Sherif Hanafy Mahmoud、Dr. Kelly A. Grindrod)、台湾 (Dr. Hsiang-Wen Lin、Dr. Yu-Chieh Chen)、米国 (Dr. Alex C. Lin)、日本 (Dr. Akihiro Hisaka、Dr. Ryo Inose、Dr. Yuta Tamemoto)から10名の研究者に登壇いただき、研究成果について意見交換を行います。シンポジウム名に「アジア」と称しているものの、よりグローバルな展開となりました。

クリニカルリサーチと一つにいても、切り口は様々です。薬理的アプローチ、細胞生物学的アプローチ、ビッグデータサイエンス、医療システムの構築など多岐に渡ります。この機会に、是非世界の研究に触れてみてください。

キーワード	#クリニカルリサーチ #ビッグデータ #医療システム
-------	----------------------------------

OS01 **ダイバーシティシンポジウム 「ダイバーシティの新潮流」**
 — ダイバーシティマネジメントと活躍する女性の視点 —
 オーガナイザー 林 良雄（東京薬大）、鈴木貴明（山梨大病院薬）

2024年3月30日(土) 9:45 ~ 11:45 302会場

ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン (DE&I) が強く意識され、多様性を受け入れる社会規範や組織づくりが進んでいます。あなたはこの潮流に乗り遅れてはいませんか？ DE&I を漠然と捉えていませんか？ シンポジウムに参加してDE&Iについて一緒に学び、議論を深めましょう！

本シンポジウムでは、社会でリーダーとしてご活躍中の3人のシンポジストに、企業経営やDE&Iを専門とする立場からみたDE&Iやそのマネジメントについて、ご自身の生き方などを交えながらご講演をいただきます。薬学業界で研究者や医療従事者として働く方、管理者の方、学生の皆さん、皆様ご自身の人生の様々な選択やDE&I活動のお役に立つシンポジウムになればと存じます。



シンポジスト
 ◇株式会社 Will Lab 代表取締役 小安美和
 ◇ARC Therapies 株式会社代表取締役社長 ARCHIMED GROUP オペレーティングパートナー 鈴木蘭美
 ◇大阪大学 ダイバーシティ&インクルージョンセンター教授 日高乃里子

キーワード #ダイバーシティ
 #DE&I
 #女性の視点

OS02 **長井記念薬学研究奨励支援シンポジウム**
 「長井記念若手薬学研究者賞 授賞者からのメッセージ」
 オーガナイザー 金井 求（東大院薬）、加藤将夫（金沢大院医薬保）

2024年3月31日(日) 9:45 ~ 11:45 418会場

日本薬学会では、学位を取得して将来の薬学の発展に寄与する強い意志を持った薬学研究者育成を目指して、会員が学位を取得するために研究に専念できる環境整備のために、長井記念薬学研究奨励支援事業を推進しています。事業開始から8年が経過し、長井記念薬学研究奨励金を受領して学位を取得し、薬学研究者としての道に進まれた日本薬学会会員も出てきています。本シンポジウムでは、まず、高倉喜信長井記念薬学研究奨励特別委員長による「長井記念薬学研究奨励支援事業の趣旨・歴史・現状等について」の後に、薬学研究奨励費を受領して学位を取得し、現在、薬学研究者として活躍されている長井記念若手薬学研究者賞受賞者から「採用により研究に対する取り組みがどう変化したのか」、「どのようなメリットがあったか」、「どのような研究を遂行してきたのか・しているのか」、「今後どのような研究者を目指したいか」など、広い角度からそれぞれの思いを込めてお話しいただきます。最後に岩淵好治会頭に「薬学の未来のために」を解説していただき、薬学会における「長井記念薬学研究奨励事業の」意義と成果を理解し、今後の方向性を広く確認する機会にしたいと考えています。



キーワード #薬学研究者育成
 #博士学位取得
 #若手薬学研究者

S03

眼領域での薬学研究 Update

オーガナイザー 北谷 和之（摂南大薬）、森 麻美（帝京大薬）

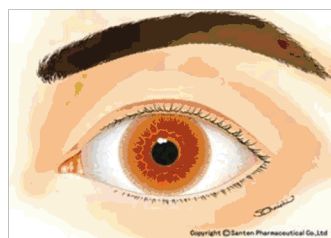
2024年3月29日(金) 9:45 ~ 11:45

303 会場

ヒトは外界からの情報の 8 割以上を視覚から取得しています。そのため、視機能の低下は、生活の質 (Quality of Life, QOL) の著しい低下につながります。眼科領域では、この眼の見え方に重点を置いた視覚の質 (Quality of Vision, QOV) という概念が一般的です。ただ見えるだけでなく、QOV を低下させないことが、QOL の維持に非常に重要です。

そこで本シンポジウムでは、眼領域での脂質研究を交え、QOV を低下させる代表的な疾患であるドライアイ、網膜色素変性、緑内障及び白内障の病態解明と新規治療薬の創出及び脂質サプリメントによる予防医学に関する最新の知見を紹介し、今後の課題や展望について議論します。

- ・網膜層構造維持におけるリン脂質脂肪酸の役割
- ・涙液油層を構成する多様なマイバム脂質によるドライアイ防止
- ・水晶体加齢変化と関連疾患予防の可能性
- ・緑内障治療薬開発における新規創薬ターゲットの探索
- ・緑内障及び網膜色素変性モデルにおけるカンナビノイド受容体刺激の影響



キーワード #眼

#眼疾患予防・治療

#Quality of Vision (QOV)

S17

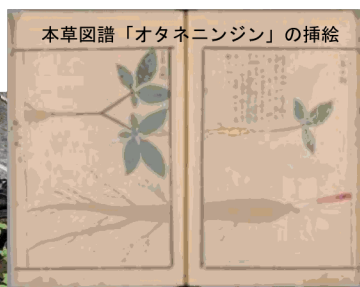
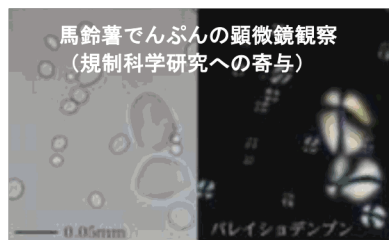
薬用植物の利活用を考える

オーガナイザー 伊藤 美千穂（国立衛研）・森田 博史（星薬大）

2024年3月29日(金) 13:15 ~ 15:15

419 会場

薬用植物のまわりで展開される研究や活動は、薬学という研究領域の中で最も親しみやすく、また歴史的に最も長く続けられているもののひとつです。そしてそのカバーする領域は広く、専門性の高い顕微鏡観察を駆使した研究や実学から、一般の方の参加大歓迎の薬用植物園観察会、専門性を高めたい薬剤師対象の講習、また薬用植物の栽培を地方活性化のツールとした活動など、つながる先も様々です。本シンポジウムでは、いくつかの実例をもとに、たくさんの側面をもつ薬用植物が、少子高齢化が顕著な我が国のヘルスケアに、今後、どのように利活用されていくのか、みなさまと共に考えてみたいと思います。



キーワード # 薬用植物

ヘルスケア

観察

S27	小児用医薬品の開発促進に向けて	オーガナイザー 鹿野 真弓（東京理大薬）
2024年3月29日(金) 15:30 ~ 17:30		502 会場

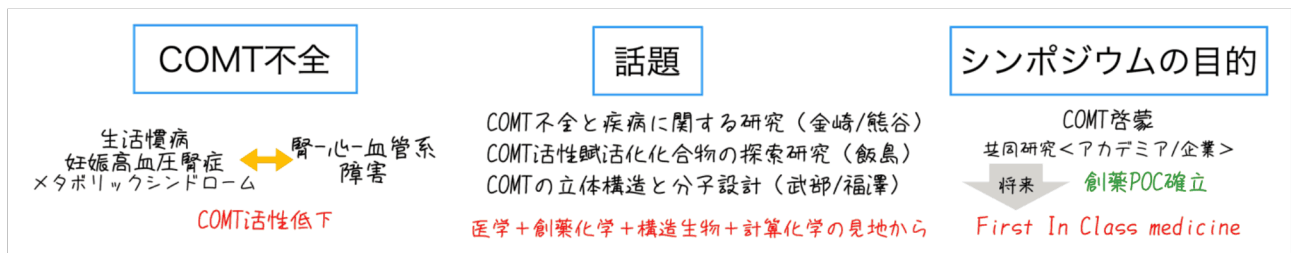
小児用医薬品は、国際的にも市場規模が小さいことや治験実施上の困難さ等のため開発が進みにくく、欧米では小児用医薬品開発を義務化することで解決を図ってきましたが、本邦の開発促進策は十分とは言えず、小児用医薬品のドラッグラグやドラッグロスが大きな問題となっています。

本シンポジウムにおいては、義務化を含む欧米の小児用医薬品開発促進制度の課題や最新情報を紹介するとともに、製薬企業及び医療機関を対象としたアンケートに基づく小児用医薬品開発上の課題として、製薬企業の収益確保、小児対象治験の基盤整備、規制当局の審査方針の明確化及び欧米当局との連携の必要性について報告します。さらに、これらの課題に対するアカデミアの対応として、小児用医薬品開発のアドバイス・協力を行う小児医薬品開発ネットワークの取組みや海外ネットワークとの連携等についてご紹介いたします。また、ドラッグラグ・ドラッグロス対応措置として骨太の方針（2023年6月閣議決定）に示された、革新的医薬品等の開発強化、イノベーションの適切な評価などの薬価上の措置、小児用・希少疾病用等の未承認薬の解消に向けた薬事上の措置と承認審査体制の強化等の厚生労働省の施策もご紹介し、小児用医薬品開発促進に向けた最新情報を共有します。

キーワード	#小児用医薬品 #小児用医薬品開発ネットワーク #ドラッグラグ・ドラッグロス対策
-------	--

S34	生活習慣に関連する健康被害ならび腎-心-血管系障害 と カテコール O-メチル転移酵素（COMT）不全	オーガナイザー 飯島 洋（日本大薬）金崎 啓造（島根大医）
2024年3月30日(土) 9:45 ~ 11:45		419 会場

COMT はドパミンやアドレナリンの代謝除去と 2-メトキシエストラジオール（2ME）の生産を担う酵素です。COMT の活性の低下が生活習慣病や妊娠高血圧腎症と関連し、2ME 投与により障害が改善されることが明らかにされています。高 S-アデノシルホモシステイン（SAH）血症や低マグネシウム血症は血管系障害の有力なリスク因子ですが、高い SAH 濃度と低い Mg 濃度は COMT の酵素反応を直接的な阻害条件です。我々は COMT 活性を高める賦活化物質も見出しました。最新の研究状況とともに、生活習慣病と関連する広い疾病領域における新しい創薬標的としての COMT の可能性を紹介したいと思います。



キーワード	#catechol-O-methyltransferase #metabolic syndrome #enhancer
-------	---

S35	Frontiers in Synthetic and Medicinal Chemistry 2024 オーガナイザー 杉田 和幸 (星薬大)、市川 聡 (北大院薬) 石川 勇人 (千葉大院薬)、荒井 雅吉 (阪大院薬)
	2024年3月30日(土) 8:30 ~ 10:30 502 会場

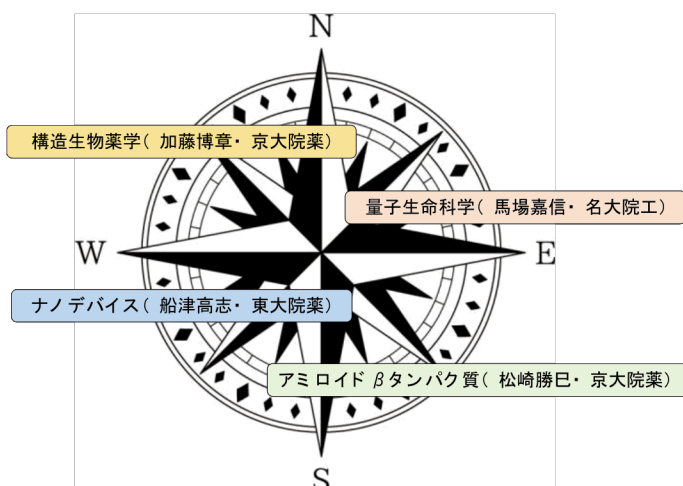
モダリティーの多様化が推進される中で、低分子有機化合物や天然有機化合物が重要な分子群であることが再認識されつつあります。一方で、新規化学反応の開発はますます活性化し、合成分子のケミカルスペースも拡張してきています。このような現状を積極的に活かし、既存の枠に留まらない次世代の低-中分子医薬品創製に向けた研究を啓発することを目論み、日本薬学会化学系薬学部会および医薬化学部会が連携し、本国際シンポジウムを企画しました。最先端有機合成化学と最先端創薬化学の接点にフォーカスし、4名の日本人講演者による英語でのシンポジウムを開催します。

本国際シンポジウムに引き続いて、有機化学分野の海外研究者として Alois Fürstner 教授 (Max-Planck-Institut für Kohlenforschung, Germany) を招聘し、特別講演を行うこととしました。4名の日本人講演者による国際シンポジウムと特別講演をジョイントさせ、最先端の有機化学を推進する薬学研究者が一堂に会する国際的な場を設けることで、本分野における薬学研究の発展・啓発に貢献することを目指します。

キーワード #最先端有機合成化学 #最先端創薬化学

S36	物理系薬学部会シンポジウム：物理系薬学の羅針盤 オーガナイザー 石濱 泰 (京大院薬)、米持 悦生 (星薬大)
	2024年3月30日(土) 13:15 ~ 15:15 301 会場

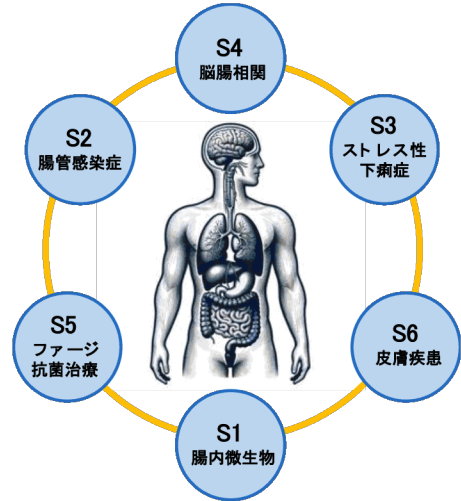
物理系薬学は、薬学のみならず、物理化学、分析化学、放射化学などを中心とした幅広い学問領域をカバーしています。本シンポジウムでは、長年にわたり物理系薬学分野をリードしてこられた経験豊かな4名の先生方に、ご自身の研究を中心に、各分野の歴史、現状、そして期待される将来についてお話しいただきます。各分野における個別の深い議論に加え、物理系薬学という広い視野からの議論が、今後10年、20年の本領域のさらなる発展の羅針盤となることを期待しています。皆様の積極的なご参加をお待ちしております。



キーワード #物理系薬学 #羅針盤

S37	生物系薬学部会・微生物シンポジウム マイクロバイオームから紐解く新しい病態の理解と新規治療戦略	オーガナイザー 河村 好章 (愛知学院大薬)、杉田 隆 (明治薬大)
	2024年3月30日(土) 13:15 ~ 15:15	302 会場

ヒトには100兆を超える微生物がマイクロバイオームとして存在しています。このマイクロバイオームは、ヒトの体に共生する微生物(細菌・真菌・ウイルスなど)の集合体で、これら微生物は相互に影響しあってバランスを保ちながら生息しています。マイクロバイオームは、自身の菌体成分や代謝産物を介して宿主であるヒトの免疫系、代謝系、神経系、さらには脳にまで影響を与えていることが明らかになってきました。従って、マイクロバイオームのバランスが崩れると、特定の部位の疾患だけでなく、全身の様々な部位で疾患を引き起こすことがあり、ヒトの健康や疾病に大きく関与していることが分かってきました。



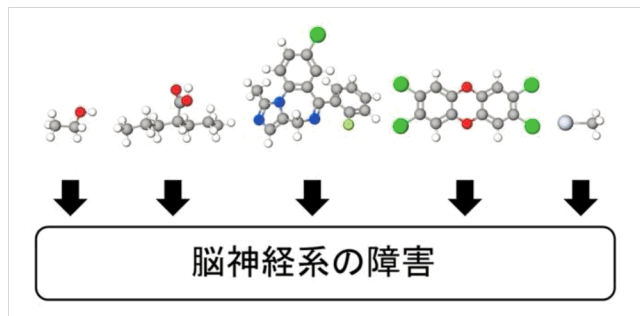
このシンポジウムでは、腸管及び皮膚のマイクロバイオームに焦点を当て、その基礎から最新の科学的知見、さらにはファージを用いた新しい治療戦略について紹介します。

キーワード	#マイクロバイオーム #腸管-宿主相互作用 #ファージ療法
-------	-------------------------------------

S38	環境・衛生部会シンポジウム ～化学物質による神経毒性のメカニズムと生体システム応答～	オーガナイザー 黄 基旭 (東北医科薬科大学)、中山 啓 (神戸薬科大学)
	2024年3月30日(土) 13:15 ~ 15:15	303 会場

認知・情動・行動・内分泌といった様々な生体反応は脳神経系に制御されています。そのため、神経毒性を発揮する化学物質の曝露は、重篤な健康被害へとつながります。

神経毒性を示す化学物質は多岐にわたり、それぞれの毒性発揮メカニズムがこれまでに研究されてきました。しかし、それぞれの化学物質は、標的細胞や健康被害の形が異なるなど、多様さが浮き彫りとなっています。本シンポジウムでは、神経毒性をもつ異なる化学物質に関する最新の研究成果を紹介していただくことで、各化学物質の固有性を知るとともに、神経毒性の隠された共通項を炙り出すことを目的としています。本シンポジウムが、化学物質の曝露による脳神経障害の理解と予防に向けたブレークスルーを生み出すことを期待しています。



キーワード	#神経毒性 #化学物質曝露
-------	------------------

S67

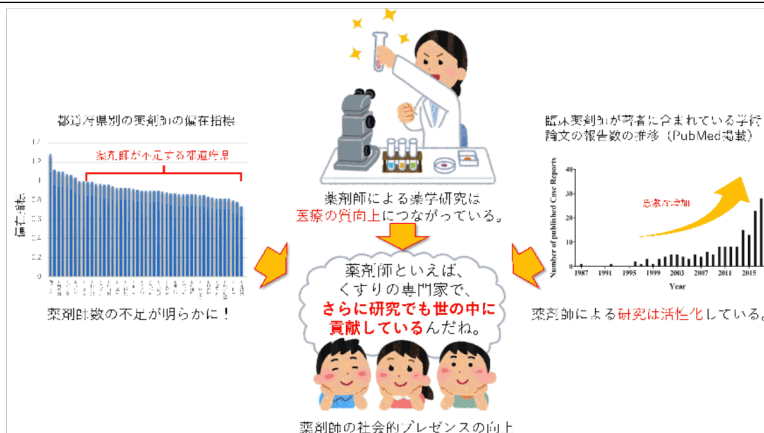
第2回 薬学研究的活性化を通じた薬剤師の社会的プレゼンス向上

オーガナイザー 榎屋 友幸 (鈴鹿医療大薬)、尾田 一貴 (熊本大病院薬)

2024年3月31日(日) 15:30 ~ 17:30

311 会場

薬剤師は適切な薬物治療の実施のために日々活躍しています。そのため、医療現場からの薬剤師への期待は年々高まっており、薬剤師の確保は欠かせません。それにもかかわらず、2023年の厚生労働省の調査で、特に病院薬剤師の全国的な不足が明らかになりました(図左)。この背景には、一般社会における薬剤師の認知度(社会的プレゼンス)が、医療現場からの期待の大きさに比べて、低い可能性が考えられます。それ故に、十分な薬剤師数を確保し適切な医療を持続させるためには、薬剤師の社会的プレゼンスを向上させることが必要ではないでしょうか。



進歩が目覚ましい医療情報通信技術のもと、先進的な医療を展開するには、医療及び薬物治療に関わるあまたの未解決課題も解決していなければなりません。実は、このような未解決課題を、薬剤師が解決する件数が増えてきましたが(図右)、この事実を社会は認知していないことに着目いたしました。

本シンポジウムでは、薬物治療の臨床疑問を解決するために行った薬剤師の薬学研究を紹介し、その薬学研究の医療への貢献をどのように社会にアピールし、子供でも理解できるくらいの薬剤師の社会的プレゼンス向上(図下)に繋げていくのかについて考える機会になると期待しています。

キーワード #薬剤師の社会的プレゼンス
#薬学研究
#薬剤師不足

S69

適切な生物応答の精密化学制御

オーガナイザー 宮地 弘幸 (東大院薬 創薬機構)
長澤 和夫 (東京農工大)

2024年3月31日(日) 15:30 ~ 17:30

502 会場

生体機能の解析や制御、さらには医薬品創製を目指した有機化合物の合成に関しては、従来、生体内の基質を出発点とした化合物の構造展開が主に行われて、これまでに多くの成果が得られてきました。しかし、ポストゲノム時代の今日、従来以上に高機能かつ高活性、生体内で適切な効果効能を示すケミカルツール、薬理的ツールの創製が求められています。肝となるのは、精密かつ多面的な生体機能情報を集積・整理統合し、それらを基にした大胆な発想とその実践であると考えます。

本シンポジウムでは、独自の論理、アイデア、コンセプトを基に様々な高機能性ケミカルツール、薬理的ツール、さらには医薬品創製概念を提唱し、合成と評価を精力的に展開されている先導的な研究者に研究の成果をご講演頂きます。それぞれの発表が、今後の精密生物応答調節物質創製の指針を考える機会となれば幸いです。

キーワード #ケミカルツール
#薬理的ツール
#生物応答調節物質創製

系別一般学術発表演題数

系	口頭発表	ポスター発表
化学系薬学	376	616
物理系薬学	94	273
生物系薬学	301	641
環境・衛生系薬学	34	214
医療系薬学	221	689
その他	8	93

(2024年1月22日現在)

一般学術発表の発表番号の読み方

口頭発表

[日付] - [会場] - [午前 / 午後][発表順]

(例)29-211-am01

→ 3月29日、211会場で午前の一番目の発表

ポスター発表

[日付][会場] - [午前 / 午後][パネル番号]

(例)29P-am001

→ 3月29日、P会場で午前に001番のパネルに掲示

※末尾にSが付いた演題は優秀発表賞審査対象者です。

化学系 – 有機化学

基質の臭素を効果的に引き抜く新触媒

〔京大院薬〕 関 悠汰

臭素原子を含む分子は安価に市販されている有用な合成原料である一方、環境に優しい次世代の合成技術として注目を集めている光触媒反応に対しては低活性であることが問題となっていました。今回私たちは、幅広い基質から臭素原子を効果的に引き抜く光触媒の開発に成功し、有機分子の骨格構築に利用できることを示しました。

#光触媒

#触媒開発

#臭素原子

30-415-pm19S

不活性臭化アルキルの還元的変換を可能とする高活性有機光触媒の開発

化学系 – 有機化学

フラボノイドのオンデマンド合成

〔筑波大〕 風間 友花

フラボノイドには様々な種類がありますが、それらは食材や漢方薬に含まれる「体に良い物」と認識されています。最近では眠気の調節にも関与すると報告されています。私たちが研究しているオンデマンド合成技術では、多種多様なフラボノイドを自由に作り分けることができるため、創薬研究への大きな貢献が期待できます！

#フラボノイド

#網羅的合成

#構造活性相関

31-415-pm20S

フラボノイド類の網羅的合成法の開発と塩誘導性キナーゼに対する構造活性相関研究

化学系 – 有機化学

立体が大きいアミノ基の多様な変換を達成

〔九大院薬〕 辻 汰朗

アミノ基は、生体内や天然に広く存在する重要な構造の一つです。しかし、立体が大きいアミノ基を別の構造に変換する方法は、限られており、不十分でした。私たちは、ジアゼンという化合物に着目し、変換困難とされていたアミノ基をジアゼンに変換することで、様々な構造に変化させることに成功しました。

#立体混雑

#ジアゼン

#脱アミノ変換反応

29-414-pm01S

立体混雑な α -三級アミンを用いた脱アミノ変換反応のための触媒的ジアゼン合成の開発

化学系 – 有機化学

難関天然物「ヒマレンシン A」の全合成

〔東北大院薬〕 四釜 巧基

ユズリハ科の植物は、創薬シーズとして期待される多環縮環構造を持つアルカロイドを産生することが知られていますが、天然からは微量しか得ることができません。約 20 年の研究を経て、遂に私たちはその一種ヒマレンシン A の完全化学合成に成功しました。これにより、ヒマレンシン A 類縁体の創薬研究の道が拓かれました。

#化学合成

#天然物

#アルカロイド

29-511-am06S

五環性カリシフィリン A 型アルカロイド・ヒマレンシン A の全合成

化学系 – 生薬学・天然物化学

天然物でプロテアソームを活性化！

〔熊本大〕 貞廣 優作

神経変性疾患の治療において天然変性タンパク質 (IDP) の蓄積を防ぐことは重要な課題です。そこで、私たちは IDP の分解酵素である 20S プロテアソームの活性化に着目しました。本発表では、多様な化合物を含む天然物エキスの酵素活性化試験と成分分析のデータを統計解析することで効率的に目的化合物を探索しました。

#神経変性疾患

#20S プロテアソーム

#天然物スクリーニング

29-411-pm07

Bioactive molecular networking を利用した真菌由来 20S プロテアソーム活性化物質の探索

化学系 – 生薬学・天然物化学

天然物生合成遺伝子による新規がん治療法

〔静岡県大〕 根岸 天都

微生物が産生する天然物は医薬品として広く用いられてきました。しかし臨床効果の低さや副作用等の問題が、天然物の医薬品開発の障壁となっています。我々は、天然物を生産するために必要な遺伝子をヒト細胞内に導入し、細胞自身に薬となる天然物を作らせ、効率的にがん細胞を死滅させる新しい遺伝子治療法を提案しました。

#遺伝子がん治療

#天然物

#生合成

30-411-pm03S

抗腫瘍性抗生物質 fumagillin 生合成遺伝子のウイルス発現系による新規抗がん遺伝子治療法の確立

化学系 – 生薬学・天然物化学

心不全の原因 CHOP をチョップする！

〔東京薬大〕川合 香毅

転写因子 CHOP の活性化は、心不全での心筋細胞死を誘発する。この CHOP プロモーター活性をチョップ（断つ）する植物由来天然物を4つも発見した。適度な脂溶性を有し、細胞透過性が良好なフラボノイドである。発表では初期の構造活性相関もお話する。心不全治療に資する良好なリード化合物になりそうだ！

#心不全治療

#転写因子

#フラボノイド

29-411-pm15S

心筋細胞における CHOP を介したアポトーシスを抑制する天然由来化合物の探索

化学系 – 医薬化学

「細胞が放つ粒子」で狙った細胞に薬を運ぶ

〔京大化学研〕中川 優奈

細胞外小胞は細胞が放つ小さな粒子で、薬を体内の必要な部分に運ぶ運搬体としての利用が期待されます。しかし送達効率や特定の細胞を狙う力が低いことが課題です。我々は特定の細胞に効率的に侵入する新型コロナウイルスに着目し、細胞への侵入を担うスパイクタンパク質を利用することで、これらの課題解決に成功しました。

#細胞外小胞

#新型コロナウイルス

#ドラッグデリバリー

31-413-am13S

SARS-CoV-2 Spike Protein 搭載細胞外小胞による細胞選択的かつ高効率な細胞内送達

化学系 – 医薬化学

アミロイド形成の温床を狙って壊す触媒

〔東大院薬〕渥美 渉

高齢化社会において、アルツハイマー病の治療法開発は大きな課題です。その原因とされるアミロイドの形成を未然に防ぐことは、新規予防法として有望です。私たちは、アミロイド形成の場として働く液-液相分離に介入する化学触媒を見出しました。この知見が将来アルツハイマー病の予防法開発に繋がることを夢見ています。

#アルツハイマー病

#光酸素化触媒

#液-液相分離

29-413-am02S

タウ凝集に関与する液液相分離における触媒的光酸素化反応

物理系 – 物理化学・生物物理

機械学習と光を用いて細胞を網羅的に可視化

〔東北大〕 土橋 亮太

私たちはラマン散乱と呼ばれる光散乱現象と機械学習を組み合わせることで、あるがままの状態で単一生細胞の中にある分子の濃度分布を網羅的に可視化することに成功しました。この方法を用いることで、生体内で繰り返される様々な生理現象・薬剤の作用に伴う生体分子の濃度変化を直接観測することができます。

#その場濃度定量

#機械学習

#光散乱現象

31-417-am12S

単一生細胞内にある生体分子のその場濃度定量を行う MCR-ALS ラマンイメージングの開発

物理系 – 物理化学・生物物理

スパコンで免疫タンパク質の解析に挑戦！

〔京大院〕 藤井 俊樹

コンピュータシミュレーションによる生命現象の解明は劇的な発展を遂げています。私たちは、免疫細胞の制御に関与するタンパク質に注目し、その挙動が結合する化合物の荷電状態に依存する可能性を明らかにしました。この研究結果は、免疫を制御する新しい医薬品の開発につながると期待されます。

#コンピュータシミュレーション

#免疫タンパク質

#荷電状態

30-417-am07S

計算化学的アプローチによる MR1 細胞表面発現に重要な因子の特定

物理系 – 分析化学

将来の腎機能を占うための基盤分析法を確立

〔東北大〕 鯨井 涼太

糖尿病では腎機能の低下が透析や死亡のリスクを増加させるため、将来の腎機能低下を高精度に予測する方法が求められています。本研究では、腎機能低下に先んじて変動する 10 種類の血中バイオマーカー候補化合物を精密かつ一度に分析する方法を確立しました。今後、本分析法を基盤として予測診断法の実現を目指します。

#糖尿病性腎臓病

#バイオマーカー

#LC-MS/MS

29-417-pm15S

糖尿病性腎臓病における腎機能予後予測法の実現を目指したバイオマーカー候補低分子化合物の LC-MS/MS 同時定量法の研究開発

物理系 – 放射化学

アスタチン-211 ががん免疫を誘導！

〔金沢大〕越後 拓亮

アスタチン-211 (At-211) が出すα線は高いエネルギーを持つため、強力ながん治療効果が期待されます。私たちは最近、At-211 によるがん治療用薬剤を開発しました。今回、この薬剤ががん免疫を誘導することが明らかとなり、免疫に作用する抗がん剤と組み合わせることで、免疫応答をさらに強化し、治療効果の増大が期待されます。

#アスタチン-211 (At-211)

#α線

#がん免疫

29-417-am01S

211At 標識 RGD ペプチドによる抗腫瘍免疫応答の評価

生物系 – 生物化学

てんかんにおけるマイクログリアの研究です

〔東大院薬〕川名 哲

- ・内側側頭葉てんかんモデルにおけるマイクログリア Clec7a の発現上昇を示しました。
- ・Clec7a のノックアウトはてんかん発作の発生頻度を上昇させました。
- ・Clec7a のノックアウトはマイクログリアの脂質輸送体である abca1 の発現低下を引き起こしました。

#内側側頭葉てんかん

#マイクログリア

#Clec7a

31-211-pm05S

内側側頭葉てんかんモデルにおけるマイクログリア Clec7a の発現上昇

生物系 – 生物化学

アレルギーに打ち勝つ食生活を目指して

〔阪大〕高野 はるか

美味しく、アレルギー対策もできる食事はいかがですか？私達は薬食同源の考えに基づいて、アレルギー抑制成分を含む食品を組み合わせることでアレルギーを効果的に予防する、新しい食事法の開発を目指しています。本会では、健康茶に使われるハーブ延命草の成分が高いアレルギー抑制効果を示すことを報告します。

#アレルギー抑制

#延命草

#肥満細胞

30-211-pm16S

延命草成分オリドニン は肥満細胞の脱顆粒を抑制する

生物系 – 生物化学

タンパク質分解によるリボソーム発現制御

〔星薬大〕千葉 峻太郎

ユビキチン・プロテアソーム系は細胞内の主要なタンパク質分解機構のひとつです。今回私たちは、ユビキチンリガーゼである TRIP12 の標的タンパク質を探索し、転写抑制因子 ZGPAT を同定しました。TRIP12-ZGPAT 軸は翻訳装置リボソームをコードする遺伝子群のうち約 20 個の発現を制御していました。

#ユビキチン

#プロテオミクス

#リボソーム

31-211-pm16S

TRIP12 依存的に形成されるユビキチン分岐鎖の機能解析

生物系 – 薬理学

死後の脳提供がアルツハイマー病研究を加速

〔広島大院〕前田 祐希

動物や細胞を用いた研究では、アルツハイマー病患者の病気の仕組みを解明することはできません。患者の死後にご提供される脳組織を対象として、体内に存在する全2万種類のタンパク質の中から、病気で重要な分子群を絞り込むことに成功しました。神経細胞でもない、アミロイドβでもない、新たな仕組みを紹介します。

#死後の患者の脳

#薬の標的の探索

#アストロサイト

29-416-pm17S

高深度定量プロテオミクスに基づくアルツハイマー病患者の後部帯状回における病態分子機構の解明：運動野皮質との比較

生物系 – 薬理学

双子由来 iPS 細胞で、心臓病の性差の謎に迫る

〔静岡県大〕若林 聖士

世界の死因トップである心臓病に対する創薬研究では、ヒト iPS 細胞の応用が期待されています。私たちは、心臓病の発症や進展にみられる男女差の分子基盤を探索するために、遺伝的背景の近い双子男女から iPS 細胞を樹立しました。この細胞を用いて、性差機構の理解を深め、性別を考慮した医療に貢献することを目指します。

#性差

#iPS 細胞

#分化心筋細胞

30-416-pm18S

二卵性双生児男女由来 iPS 細胞を利用した性差解析実験系の構築

生物系 – 薬理学

薬から逃げのびたがんを叩き根治を目指す

〔がん研がん化学療法セ〕 中村 彩音

抗がん剤治療から逃れたがん細胞は治療後の再発の原因となります。私たちは、薬剤耐性細胞の出現のしくみの解明を試み、胃がんにおいて、薬をかけたあとの時期に応じて薬の効果をのがれるしくみが変わる可能性や、細胞同士の相互作用がここにかかわることを見つけました。薬物療法によるがんの根治が期待されます。

#胃がん

#抗がん剤

#薬剤耐性細胞

29-416-am01S

胃がんにおける初期薬剤耐性 drug-tolerant persister 細胞の生成・維持過程における二層性の遺伝子発現応答

生物系 – 微生物学

抗ウイルス薬の新たな創薬標的を見つける

〔阪大〕 安齋 樹

ウイルスが、ヒトなどの宿主に感染し、増殖するためには、宿主細胞のタンパク質（宿主因子）を巧みに利用する必要があります。本研究では、新型コロナウイルスの増殖に関わる宿主因子を新たに同定しました。ウイルス増殖を制御する宿主因子の機能を明らかにすることで、新たな治療薬の開発につながることを期待されます。

#新型コロナウイルス

#宿主因子

#創薬標的

30-412-am09

SARS-CoV-2 増殖を制御する宿主因子の同定と機能解析

環境・衛生系 – 衛生化学・公衆衛生学

感染症と発達障害：光で捉える新手法開発！

〔岐阜薬大薬〕 長平 萌花

妊娠期の感染症においては発達障害を引き起こす場合がありますが、近年、病原体自体の影響よりも母親の免疫活性化が原因であると疑われています。我々はこの免疫活性化による子供の脳への影響を、脳が光るマウスを用いて、生きてまま可視化することに成功しました。この手法は発達障害のリスク解明に役立つと期待されます。

#光るマウス

#発達障害

#母体免疫活性化

31-315-pm04S

母体免疫活性化による神経発達影響の評価に資する神経分化トレーサーマウスの有用性

環境・衛生系－衛生化学・公衆衛生学

酒粕は関節リウマチの悪化を予防する!?

〔福山大薬〕 村上 綾香

関節リウマチは、関節の痛みや変形を伴う自己免疫疾患です。食生活で関節リウマチを予防できれば、健康寿命の延伸が期待できます。私たちは、栄養素を多く含む酒粕に着目して関節リウマチの予防効果について検討しました。その結果、酒粕の摂取は関節リウマチの悪化を予防することが分かりました。

#関節リウマチ

#酒粕

#自己免疫疾患

31-315-am12S

酒粕による関節リウマチ病態モデルへの有効性

環境・衛生系－環境科学

シアル酸からヒ素による発がんに迫る！！

〔徳島文理大〕 田口 央基

ヒ素による環境汚染によって多くの人々が慢性ヒ素中毒による発がんを苦しんでいます。本研究では、ヒ素によって糖鎖末端のシアル酸が増加することを発見しました。細胞膜表面におけるシアル酸は、免疫反応の抑制や細胞増殖に関与していることから、ヒ素による新規発がん機序の発見に繋がることが期待されます。

#免疫チェックポイント

#発がん

#ノイラミニダーゼ

31-315-pm13S

亜ヒ酸は細胞膜表面における糖鎖末端のシアル酸発現量に影響を与える

環境・衛生系－社会と薬学

父の覚醒剤乱用が孫を肥満にする!?

〔昭和大院〕 青木（宗友） 咲子

覚醒剤乱用者は男性に多いので、父親の覚醒剤乱用が子や孫に与える影響を明らかにするために、私たちはマウスを用いて研究を行いました。その結果、父親の覚醒剤摂取は子供の発育遅延と記憶力の低下、孫の幼少期の肥満を生じることを明らかにしました。父親側の要因による後世への影響は、長期的な検討が必要です。

#覚醒剤

#父親

#子供や孫への影響

30P-pm344S

父親のメタンフェタミン曝露が後続世代に及ぼす影響

医療系 – 薬剤学

粘液を突破せよ！肺 performance な粒子

〔静岡県大院薬〕井上 侑樹

粘液は外来異物の体内への侵入を防ぎますが、薬物を送り届ける妨げにもなります。私たちは粘液のなかを自由に移動できるナノ粒子に薬物を入れることで、粘液に覆われた炎症部位へ多くの薬物を送り届けることを達成しました。炎症性呼吸器疾患をはじめ、粘液分泌が増加する疾患に対する有効な製剤技術として期待されます。

#炎症性呼吸器疾患

#粘液拡散性ナノ粒子

#薬物動態制御

31-304-am02S

気道炎症部位への効率的薬物送達を指向した mucopenetrating nanoparticle の開発

医療系 – 製剤学

2 種薬物の混合が非晶質溶解度に及ぼす影響

〔千葉大院薬〕植田 圭祐

薬物が水溶液中に溶解可能な最大溶解量は薬物固有の非晶質溶解度によって決定されます。一方で、複数の薬物が共存する環境下においては薬物の非晶質溶解度が低下することが知られています。本研究では第2薬物の共存が薬物の非晶質溶解度に及ぼす影響を薬物濃縮相中の水分量や相互作用の観点から明らかとしました。

#非晶質溶解度

#液-液相分離

#過飽和溶液

29P-pm382

Ritonavir の非晶質溶解度に第2薬物が及ぼす影響の熱力学的解析

医療系 – 製剤学

ナノファイバーを使った新しい製剤！

〔岐阜薬大薬〕荒川 咲紀

様々なモダリティを封入できる高分子ナノファイバーは新しいドラッグデリバリーシステムとして注目されています。本研究では、溶けない薬を溶かすためにナノファイバーを活用しました。エレクトロスピンニング法により薬物をナノファイバー中に分散させることで、薬物の劇的な溶解性改善効果が得られました。

#ドラッグデリバリーシステム

#ナノファイバー

#エレクトロスピンニング

31-313-pm14S

難水溶性薬物の溶解性制御を目的とした高分子ナノファイバー固体分散体の設計

医療系 – 医療薬学

糖尿病の痛みに効くありそうでなかった方法

〔スギ薬局〕 山本 卓資

糖尿病性腎症を遅延させることが知られているアンジオテンシン変換酵素阻害薬（ACEI）や受容体拮抗薬（ARB）が、有痛性糖尿病性神経障害（PDN）発症に影響を及ぼすか否かを、保険薬局のレセプトデータの解析により検証した。その結果、ACEI または ARB 服用患者では PDN 発症が減っていることが判明した。

#有痛性糖尿病性神経障害

AT1 受容体拮抗薬

#アンジオテンシン変換酵素阻害薬

31-501-pm03

アンジオテンシン変換酵素阻害薬と AT1 受容体拮抗薬による有痛性糖尿病性神経障害の抑制：保険薬局のレセプトデータ解析による検証

医療系 – 医療薬学

単一細胞追跡により創薬に新たな可能性を！

〔東大院薬〕 新倉 竜太

一般に白血病の治療薬には細胞増殖を標的とした抗がん剤が用いられています。しかし、これらの薬が細胞の増殖中において、「いつ・どのように細胞死を誘導するのか」の理解は未だ限定的です。そこで、マイクロウェルを応用した長期単一細胞追跡を駆使し薬剤の作用機序解析に取り組み、新たな併用療法の提示に挑戦しました。

#薬剤作用機序解析

#マイクロウェル

#単一細胞追跡

30-511-am09S

長期単一細胞追跡が明らかにする急性骨髄性白血病治療薬の細胞応答

医療系 – 医療薬学

調剤薬局が熱中症対策のクーリングシェルター？

〔都立墨東病院〕 城田 幹生

クーリングシェルターをご存知でしょうか？気候変動の影響で、熱中症による死亡者数は増加傾向です。墨田区薬剤師会では調剤薬局をクーリングシェルター（避暑施設）にする活動を実施しました。今回利用された方にアンケート調査を実施し、調剤薬局がクーリングシェルターの役割を担う際の利点や課題が明らかになりました。

#クーリングシェルター

#熱中症対策

#調剤薬局

30-304-pm07

COVID-19 下におけるクーリングシェルター機能を有する薬局の効果的な熱中症対策の介入方法の開発～脱水症に関する認識調査～

医療系 – 医療薬学

副作用を予測してより安全ながん治療を！

〔岡山大〕山元 黎奈

免疫チェックポイント阻害薬は幅広いがん種に効果を示すがん治療薬ですが、全身の様々な部位に副作用を引き起こしてしまふことがあります。私たちは、その中でも致死率の高い副作用の一つである心筋炎の発症を事前に予測するため、リアルワールドデータから取得したデータを元に機械学習を用いて予測モデルを構築しました。

#免疫チェックポイント阻害薬

#副作用予測

#リアルワールドデータ

31-411-pm20S

レセプトデータを用いた免疫チェックポイント阻害薬誘発心筋炎の発症予測

医療系 – 社会薬学

腸内細菌に学ぶ新しい薬の安全に向けて

〔阪大薬〕田中 立

腸内細菌は、薬の代謝だけでなく新しい薬としても注目されています。抗生物質のように細菌に作用する薬は腸内細菌による代謝や薬としての応用でも問題になります。最近、抗生物質以外の薬の中に細菌に作用する薬が含まれることが明らかになっています。この研究では、腸内細菌ならではの薬の相互作用について報告します。

#腸内細菌

#レギュラトリーサイエンス

#相互作用

30-413-am04S

Blautia wexlerae の増殖と有用物質産生に対する糖尿病薬の効果

医療系 – 医療薬科学

併存疾患からみるアルツハイマー病の兆し

〔阪大薬〕塚井 彩夏

高齢になるほど疾患の発症リスクは高まり、複数の疾患を抱える人が増加します。アルツハイマー病（AD）発症リスクは併存疾患によって変わるため、併存疾患でADの発症を予想できる可能性があります。この研究では、ADの早期発見・治療を目指し、高齢者に多い疾患などの14疾患についてADのバイオマーカーを調査しました。

#アルツハイマー病

#バイオマーカー

#リン酸化タウ

31-412-pm11S

非アルツハイマー病疾患におけるアルツハイマー病バイオマーカー（p-Tau-181）解析 132.3 mm

その他－薬学教育

学生を教えるとは？ITCP で疑問を解決！

〔長崎大〕宮元 敬天

薬学教育の質向上を目指して複数大学の薬学部教員が米国ニューメキシコ大学が実施する International Teaching Certificate Program (ITCP) を受講し、授業を効果的に行うための手法を学び自身の授業で実践しています。今回はこのプログラムの内容や受講者からの評価を紹介します。

#教授法
#International Teaching Certificate Program (ITCP)
Faculty Development (FD)

29-415-pm12

薬学部教員の教授法向上を目的とした米国ニューメキシコ大学による International Teaching Certificate Program の構築と受講者による評価

その他－その他

触っただけで痛みがでる神経メカニズム

〔九州大〕井 絵理子

神経が傷つくと、服が肌に触れるような軽い刺激でも痛みが出るようになってしまいます。しかし、その仕組みは分かっていません。今回の研究では、触刺激信号が痛覚に誤変換される際に必要な神経を明らかにしました。この成果は、この異常な痛みの発症メカニズム解明と新規治療薬の開発等に繋がるのが期待されます。

#痛み
#脊髄
#神経

30P-am492S

カンナビノイド受容体 1 遺伝子プロモーター活性を有する脊髄後角神経サブセットの神経障害性疼痛における役割薬

■一般学術発表 キャッチフレーズ一覧

◆有機化学◆

基質の臭素を効果的に引き抜く新触媒

30-415-pm19S

〔京大院薬〕 関 悠汰

フラボノイドのオンデマンド合成

31-415-pm20S

〔筑波大〕 風間 友花

立体が大きいアミノ基の多様な変換を達成

29-414-pm01S

〔九大院薬〕 辻 汰朗

難関天然物「ヒマレンシン A」の全合成

29-511-am06S

〔東北大院薬〕 四釜 巧基

◆生薬学・天然物化学◆

天然物でプロテアソームを活性化！

29-411-pm07

〔熊本大〕 貞廣 優作

天然物生合成遺伝子による新規がん治療法

30-411-pm03S

〔静岡県大〕 根岸 天都

心不全の原因 CHOP をチョップする！

29-411-pm15S

〔東京薬大〕 川合 香毅

◆医薬化学◆

「細胞が放つ粒子」で狙った細胞に薬を運ぶ

31-413-am13S

〔京大化学研〕 中川 優奈

アミロイド形成の温床を狙って壊す触媒

29-413-am02S

〔東大院薬〕 渥美 渉

◆物理化学・生物物理◆

機械学習と光を用いて細胞を網羅的に可視化

31-417-am12S

〔東北大〕 土橋 亮太

スパコンで免疫タンパク質の解析に挑戦！

30-417-am07S

〔京大院〕 藤井 俊樹

◆分析化学◆

将来の腎機能を占うための基盤分析法を確立

29-417-pm15S

〔東北大〕 鯨井 涼太

◆放射化学◆

アスタチン-211 ががん免疫を誘導！

29-417-am01S

〔金沢大〕 越後 拓亮

◆生物化学◆

てんかんにおけるマイクログリアの研究です

31-211-pm05S

〔東大院薬〕 川名 哲

アレルギーに打ち勝つ食生活を目指して

30-211-pm16S

〔阪大〕 高野 はるか

タンパク質分解によるリボソーム発現制御

31-211-pm16S

〔星薬大〕 千葉 峻太郎

◆薬理学◆

死後の脳提供がアルツハイマー病研究を加速

29-416-pm17S

〔広島大院〕 前田 祐希

双子由来 iPS 細胞で、心臓病の性差の謎に迫る

30-416-pm18S

〔静岡県大〕 若林 聖士

薬から逃げのびたがんを叩き根治を目指す

29-416-am01S

〔がん研がん化学療法セ〕 中村 彩音

◆微生物学◆

抗ウイルス薬の新たな創薬標的を見つける

30-412-am09

〔阪大〕 安齋 樹

◆衛生化学・公衆衛生学◆

感染症と発達障害：光で捉える新手法開発！

31-315-pm04S

〔岐阜薬大薬〕 長平 萌花

酒粕は関節リウマチの悪化を予防する!?

31-315-am12S

〔福山大薬〕 村上 綾香

◆環境科学◆

シアル酸からヒ素による発がんに迫る！！

31-315-pm13S

〔徳島文理大〕 田口 央基

◆社会と薬学◆

父の覚醒剤乱用が孫を肥満にする!?

30P-pm344S

〔昭和大院〕 青木（宗友） 咲子

◆薬剤学◆

粘液を突破せよ！肺 performance な粒子

31-304-am02S

〔静岡県大院薬〕 井上 侑樹

◆製剤学◆

2種薬物の混合が非晶質溶解度に及ぼす影響

29P-pm382

〔千葉大院薬〕 植田 圭祐

ナノファイバーを使った新しい製剤！

31-313-pm14S

〔岐阜薬大薬〕 荒川 咲紀

◆医療薬学◆

糖尿病の痛みに効くありそうでなかった方法

31-501-pm03

〔スギ薬局〕 山本 卓資

単一細胞追跡により創薬に新たな可能性を！

30-511-am09S

〔東大院薬〕 新倉 竜太

調剤薬局が熱中症対策のクーリングシェルター？

30-304-pm07

〔都立墨東病院〕 城田 幹生

副作用を予測してより安全ながん治療を！

31-411-pm20S

〔岡山大〕 山元 黎奈

◆社会薬学◆

腸内細菌に学ぶ新しい薬の安全に向けて

30-413-am04S

〔阪大薬〕 田中 立

◆医療薬科学◆

併存疾患からみるアルツハイマー病の兆し

31-412-pm11S

〔阪大薬〕 塚井 彩夏

◆薬学教育◆

学生を教えるとは？ITCPで疑問を解決！

29-415-pm12

〔長崎大〕 宮元 敬天

◆その他◆

触っただけで痛みがでる神経メカニズム

30P-am492S

〔九州大〕 井 絵理子

キーワード一覧

本誌掲載のシンポジウム、一般学術発表のキーワードを五十音順にまとめました。

#Faculty Development (FD)	31	#AT1 受容体拮抗薬	29
#catechol-O-methyltransferase.....	15	#Clec7a	24
#DE&I	13	#enhancer.....	15
#International Teaching Certificate Program (ITCP)	31	#LC-MS/MS	23
#iPS 細胞.....	25	#Quality of Vision (QOV)	14
#metabolic syndrome	15		
#アスタチン-211 (At-211)	24	#アストロサイト.....	25
#アルカロイド	21	#アルツハイマー病.....	22, 30
# α 線	24	#アレルギー抑制.....	24
#アンジオテンシン変換酵素阻害薬	29	#胃がん.....	26
#痛み.....	31	#遺伝子がん治療.....	21
#遺伝子要因・環境要因	11	#医薬品開発	9
#医療システム	12	#院内製剤	9
#内側側頭葉てんかん.....	24	#液-液相分離	22
#液-液相分離	28	#エレクトロスピンング	28
#炎症性呼吸器疾患.....	28	#延命草	24
#化学合成	21	#化学物質曝露	17
#かかりつけ薬剤師.....	10	#覚醒剤	27
#化合物探索	12	#荷電状態	23
#過飽和溶液	28	#がん.....	11
#環境化学物質	9	#観察.....	14
#眼疾患予防・治療.....	14	#関節リウマチ	27
#がん免疫.....	24	#機械学習	23
#教授法.....	31	#クーリングシェルター	29
#薬の濃度・効果・副作用の個人差	11	#薬の標的の探索.....	25
#クリニカルリサーチ	12	#ケミカルツール.....	18

#ケミカルバイオロジー	12	#抗がん剤	26
#光酸化触媒	22	#構造活性相関	20
#子供や孫への影響	27	#コンピュータシミュレーション	23
#最先端創薬化学	16	#最先端有機合成化学	16
#細胞外小胞	22	#酒粕	27
#作用メカニズム	9	#ジアゼン	20
#死後の患者の脳	25	#自己免疫疾患	27
#周術期の薬剤情報連携	10	#臭素原子	20
#小児用医薬品	15	#小児用医薬品開発ネットワーク	15
#触媒開発	20	#女性の視点	13
#新型コロナウイルス	22, 26	#神経	31
#神経毒性	17	#神経変性疾患	21
#心不全治療	22	#生合成	21
#性差	25	#生物応答調節物質創製	18
#脊髄	31	#相互作用	30
#創薬標的	26	#その場濃度定量	23
#ダイバーシティ	13	#脱アミノ変換反応	20
#単一細胞追跡	29	#地域フォーミュラリ	10
#父親	27	#腸管-宿主相互作用	17
#調剤薬局	29	#腸内細菌	30
#転写因子	22	#天然物	21
#天然物スクリーニング	21	#糖尿病性腎臓病	23
#ドラッグデリバリー	22	#ドラッグデリバリーシステム	28
#ドラッグラグ・ドラッグロス対策	15	#ナノファイバー	28
#20S プロテアソーム	21	#熱中症対策	29
#粘液拡散性ナノ粒子	28	#ノイラミニダーゼ	27
#バイオイメージング	12	#バイオマーカー	10, 11, 23, 30
#博士学位取得	13	#発がん	27
#発達障害	26	#光散乱現象	23
#光触媒	20	#光るマウス	26
#非晶質溶解度	28	#ビックデータ	12
#肥満細胞	24	#ファージ療法	17

#付加体形成	9	#副作用予測	30
#物理系薬学	16	#フラボノイド	20, 22
#プロテオミクス.....	25	#分化心筋細胞	25
#分析技術	10	#ヘルスケア	14
#母体免疫活性化.....	26	#マイクロウェル.....	29
#マイクログリア.....	24	#マクロバイオーム.....	17
#眼.....	14	#免疫タンパク質.....	23
#免疫チェックポイント	27	#免疫チェックポイント阻害薬.....	30
#網羅的合成	20	#薬学.....	11
#薬学研究	18	#薬学研究者育成.....	13
#薬剤作用機序解析.....	29	#薬剤師の職能	9
#薬剤師の社会的プレゼンス.....	18	#薬剤師不足	18
#薬剤耐性細胞	26	#薬物動態制御	28
#薬用植物	14	#薬理学的ツール.....	18
#宿主因子	26	#有痛性糖尿病性神経障害	29
#ユビキチン	25	#羅針盤	16
#リアルワールドデータ	30	#立体混雑	20
#リボソーム	25	#リン酸化タウ	30
#臨床化学	10	#臨床研究	11
#レギュラトリーサイエンス.....	30	#若手薬学研究者.....	13

日本薬学会 今後の年会の予定

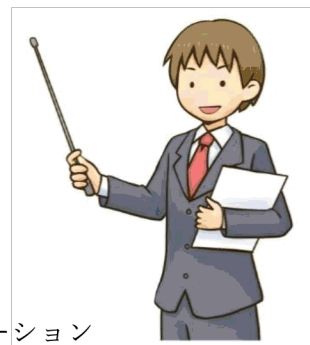
第 145 年会（福岡）

会期: 2025 年 3 月 26 日（水）～29 日（土）

会場: 福岡国際会議場、マリンメッセ福岡 B 館、福岡サンパレス

組織委員長: 大嶋孝志（九州大院薬）

テーマ: 薬学エコシステムの推進：異分野連携で拓く未来のイノベーション



第 146 年会（2026 年 3 月）は関西地方、
第 147 年会（2027 年 3 月）は関東地方での開催の予定です。

日本薬学会第 144 年会(横浜)年会ハイライト

2024 年 3 月 5 日発行

編集・発行 公益社団法人 日本薬学会 広報委員会, 第 144 年会組織委員会

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 2-12-15

TEL: 03-3406-3322 FAX: 03-3498-1835

日本薬学会 URL: <https://www.pharm.or.jp/>

第 144 年会 URL: <https://confit.atlas.jp/guide/event/pharm144/top>

© 2024 The Pharmaceutical Society of Japan